

浜松市文化財保存活用計画 国認定記念シンポジウム
「文化財の保存と活用がつむぐ歴史都市・浜松の未来」

文化財の保存・活用で都市再生 ～人口減少に対応したイタリアの事例に学ぶ 歴史都市・浜松の未来～

宗田好史
京都府立大学

文化財保存活用地域計画で 何ができるか？

- 文化財を保存・活用して「歴史都市・浜松」を創る
- 合併で増えた文化財を紡ぎ「新しい浜松」を創る
- 「工業都市・浜松」の急成長で拡散した新旧の「浜松文化」と新旧の「浜松市民・事業者・行政」を再び悠久の歴史につなぎとめ協働する
 - 文化財群：(1)地域社会と「古墳」、(2)中・近世から続く祭礼・「芸能」、(3)「戦国」大名たちの攻防、(4)「秋葉」信仰と秋葉街道；が織りなす歴史
 - 4つの保存活用区域に再編：(a)浜松中心区域（城・城下町）、(b)表浜名湖区域、(c)奥浜名湖区域、(d)天竜二俣区域；歴史的に結び合った町と村、湖と川

文化財の保存と活用がつむぐ 歴史都市・浜松の未来

- 「浜松市文化財保存活用地域計画」とは何か？
 - 保存と活用とは対立？両立？なぜ地域計画？
- 地域計画の課題
 - 開発でなく人口減少から文化財を守る、平成の大合併
- 文化財政策の世界の新潮流（発展の必然性）
 - 3つの転換と4つのトレンド
- 文化遺産と観光、文化財は「観光に活用」できる？
 - 古社寺巡りは修学旅行、観光は温泉と慰安旅行、中途半端な伊勢参りと万博見物、現代の「観光」は進化した
- 文化遺産は国際交流、多文化共生、社会的統合？
 - 市民を創っていくプロセスとしての文化と文化遺産
 - 人口減少が進み、外国人住民が増加する過程での文化財

浜松市文化財保存活用地域計画

- 合併（2005年）後の浜松の歴史と文化財
 - 浜北市、天竜市、引佐郡（引佐、細江、三ヶ日3町）、浜名郡（雄踏、舞阪二町）、磐田郡（佐久間、水窪2町と龍山村）周智郡（春野町）を編入。旧市町村域を区域とした12地域自治区を設置、7（東/西/南/北/中、浜北、天竜）区
- 「浜松」とは？その歴史は？その文化財の意味は？
 - 山と海の接点、東海道、天竜川、浜名湖
 - 戦国末期の武田と徳川の古戦場、浜松の城と城下町
- 歴史に沿って、その立ち位置を多様に変遷させた？
 - 畿内から東国へ、東国から都・大宰府へ、東海道の宿場
- 近世から近代へ東海道線で全国へつながる
 - なぜホンダ、スズキ、ヤマハが生まれた？
- 浜松の文化財保存計画を世界史の流れに位置づける。

合併後の文化財

- ⊕人口減少社会に向かい
行財政基盤の強化、事務
効率化
- ⊕広域のまちづくり
- ⊕専門職員の配置でサー
ビス向上
- 旧市町村の伝統文化、
古い地名などの喪失
- ・そこで「文化財保存活用
地域計画」
- ・こうしてリスト化してみ
ると、「大浜松市」域の歴史
と文化が見えてきた。



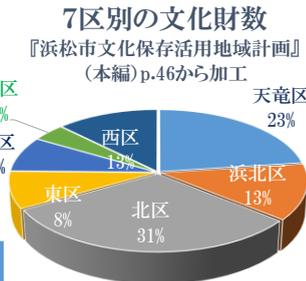
意見募集 (パブリック・コメントの実施) 市民等30人から137件のご意見が寄せられました

- ・市町村合併のたびに文化財保護のレベルが下がっているように感じます。政令指定都市となり対象文化財が格段に増えましたが、合併を繰り返す中で取りこぼされてしまった文化財がどれだけあるのか、という思いがあります。行政区再編を控える中で、行政としてどのような認識でいますか。
- ・浜松地域遺産認定制度への認定は、身近な文化資源を発掘し、広く知ってもらうことができるとは思いますが、認定された場合のメリットなど、制度周知が不十分であると感じています。制度発足からまだ3～4年であり、発展途上であると認識しています。観光・シティプロモーション課などとも協力し、観光資源として活用されることを期待します。

文化財の分布を見ると

天竜区:23%の文化財をたった3.4%の人口では守れない。
北区:31%の文化財をたった11.7%の人口では守れない。

単位 %	天竜区	北区	中区
面積	61	19	2.8
人口	3.4	11.7	29.6
文化遺産割合	23	31	8.1



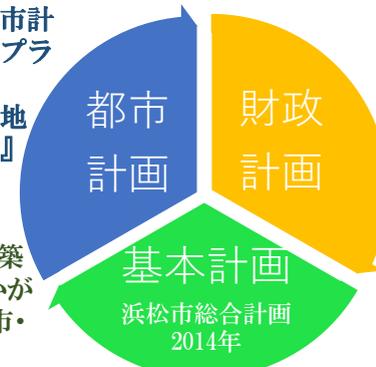
認定文化財制度が発足し、5年で455件に達した。認定は東区、中区が多いというが、天竜区、浜北区も多く北区が相対的に少ない。

文化財数/割合には、国県市指定文化財、国登録文化財、市認定文化財、埋蔵文化財を含む

市町村の計画行政

『浜松市都市計画マスタープラン』2021年
『浜松市立地適正化計画』2019年

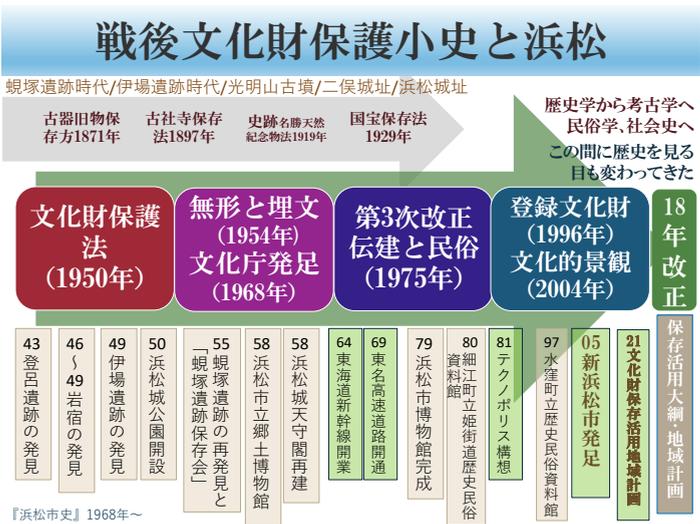
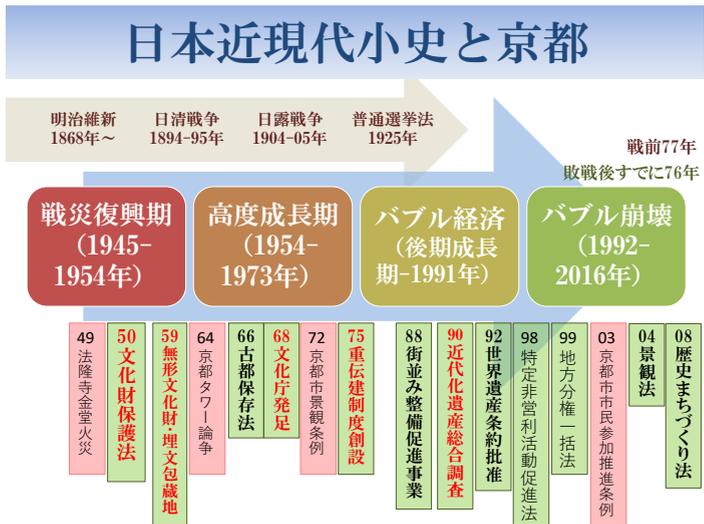
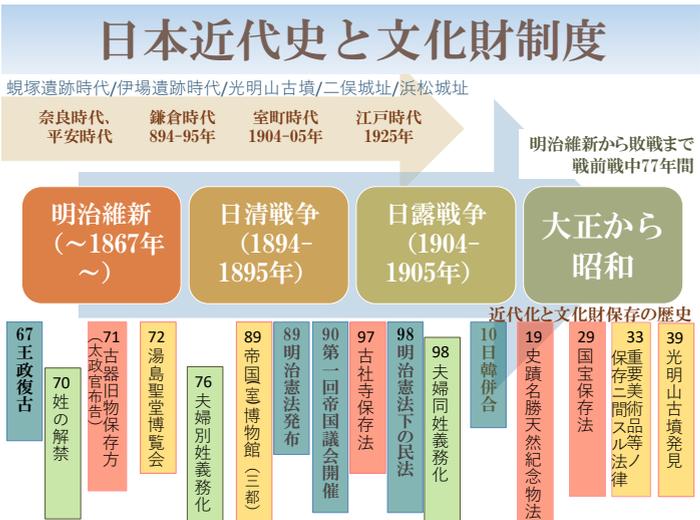
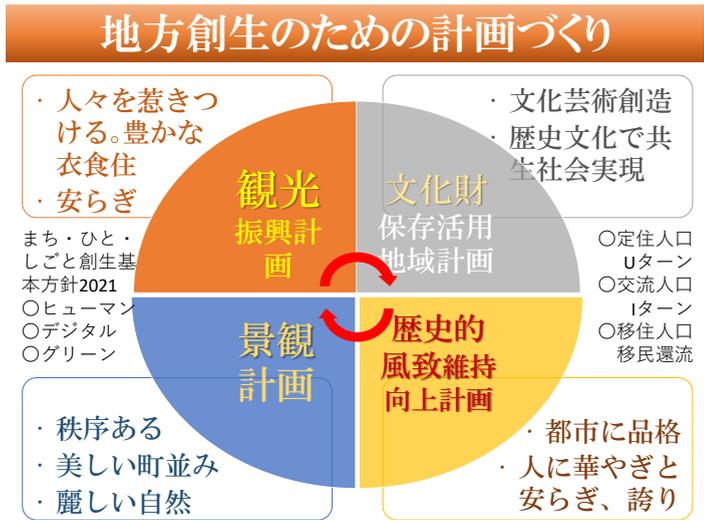
基本構想:
市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』



中期財政計画 平成27年度～平成36年度



文化財保存活用地域計画は、市の文化財の保存・活用の総合的な計画で、市の総合計画の下に位置付けられる。この計画に基づき、文化財を保存・活用することで、地域の特徴を活かした振興に資すると共に、文化財の継承につなげるものです。



浜松市史－原始編 第三章蜷塚遺跡とその時代 第1節蜷塚遺跡の研究史、昭和時代、戦後の状態

- 太平洋戦争後、神話から解放されて学問の自由が叫ばれると、考古学はそれまでの日陰の歩みから、一躍して社会の流行児になった。考古学研究熱は大いに高まり、とくに若い世代による遺跡の踏査活動は盛んに行なわれるようになった。蜷塚遺跡もこうして、相つぐ考古学徒の来訪を受けたが、その動きは、正式な文献となっては現われなかった。時たま、高校のクラブ機関誌や地方誌の中に、踏査結果の報告が散見するにすぎない状態ではあったが、『静岡県史』以後忘れられた形の蜷塚遺跡も、こうした地方研究者の間では、つねに念頭にあったのである。

92～93/706頁/浜松市立中央図書館/浜松市文化遺産デジタルアーカイブ

英国市民の歴史・自然環境保護活動

- National Trust**: 歴史的建築物・名所・景勝地の保護を目的に、1895年O.ヒル女史(社会福祉)、R.ハンター(弁護士)、N.ローズリー司祭が設立した団体。20世紀中頃、貴族・ジェントリ層の農村の邸宅(カントリー・ハウス)を譲り受け、保護した。自然海岸の保護でも有名。V.ポター、W.チャーチルらも土地・建物を託した。
- Civic Trust**: 地域のbuilt environment(人々が生活し、働いている場)に愛着を持ち、市民まちづくり活動を目指す組織。1967年議員立法で「シビックアメニティ法」として成立。シビックトラストに加盟するローカル・アメニティ・ソサエティが、所有するのではなく、ボランティア活動で、維持管理を担う活動を、各地で展開。
- Groundwork Trust**: 都市周縁部で1980年代に起こった環境改善活動。地域の「住民、企業、行政」三者が協力し、組織を作り、身近な環境を改善する取組み。全土で44のGTが、年間4万人のボランティアの協力で、年間約4000件のプロジェクトを展開。ナショナル・トラストと違い、秀でた環境でなく、悪化した環境改善に主眼を置く。もちろん文化遺産が多い。常に行政と協力。
- 日本**には、NT(東京と各地にそれぞれ)とGWT(三島など)がある。

歴史観の変遷～歴史への眼差しの変化



修史の詔、国史編輯事業、

- 『大日本編年史』編纂事業、儒学的教授方式
- 西洋の史学による歴史研究と教育/公教育の中の観光



皇国史観(新皇正統記、水戸学、国学、尊王攘夷)

- 江戸時代末期の尊王攘夷思想、平田篤胤流の国学、
- 記紀と万世一系の国体、神話から歴史へ、戦後の考古学へ



唯物史観: 資本主義の論理を考察し社会主義革命へ

- ヘーゲルの弁証法とフォイエルバッハの唯物論
- マルクス『経済学批判』序言、生産力と生産関係の矛盾



社会史と民衆史: 武士の家計簿からFamily History

- アナール学派(フランスからイタリアへ)の影響下に社会史政治史・経済史から離れ名もなき民衆の生活史を研究

文化財(遺産)政策の4つの変化

- 文化財の定義(文化財とは何か?)
- 文化財管理の実践方法(どう守るか?)
- 社会における文化財の役割(何のため?)
- 文化財の意味(社会の期待とは?)



変化	これまで	これから
文化財の定義	記念物(単体)	景観(複合体、地域全体)
	建造物(単体)	市街地(周囲と一体に)
	遺跡(歴史)	歴史的環境/文化遺産(市民の関心、物語へ)

Willem J.H. Willems ウィレム・ウィレムス氏(1950-2014年、オランダ・ライデン大学教授)

変化	これまで	これから
文化財の定義	記念物	景観
	建造物	市街地
	遺跡	歴史的環境／文化遺産
文化財管理の実践方法	指定	地域性の重視(選定、登録、分権的)
	部分的保存(緊急避難的に)	統合的保存(計画的に将来を描く)
	遺跡中心(歴史重視)	より戦略的(社会的関心重視)
	保存技術的研究	哲学的研究(学際的)

変化	これまで	これから
社会における文化財の役割	国民的統合	文化的多様性の尊重
	訪問者による経済効果	広範な経済的利益、社会的便益
-決定の仕組み	国家(博物館、文化財保護審議会) 権威主義的	地方自治体(市民団体、非営利組織) 民主化・市民参加
-専門家とその役割	専門家	ファシリテータ
	学問分野別	多様な学問分野、社会セクターの複合
	歴史的知識	経営管理能力

変化	これまで	これから
文化財の意味	古さ	産業遺産・戦後建築
	美的	記念・記憶価値
	国家的重要性	地域個性創造
	単一文化	文化的多様性の意義
	価値を狭く定義	より広い価値観に対応
- 解釈	専門家中心	地域社会/住民重視
- 責任	国家主導	地元・市場・民間
	文化財部門	文化/環境/観光政策部門

文化財(遺産)保護は市民社会の成熟に伴って、時代と共に変化する。歴史を扱うからといって過去の経験が常に役立つ訳ではないことを理解する。

文化財行政の新潮流

転換の柱	社会的影響
民主化	権威的学者の手から民間の研究者や市民の手に
地方分権化	中央集権、保存独裁、強権的保存から地域合意の尊重へ
民営化	民間資金活用、大企業の財団から地元事業者の活用へ

欧米先進国でこの四半世紀進んだ転換、開発圧力に対抗する時代ではない？

文化財行政への市民参加

参加の形	参加の具体的な内容
市民参加	住民が保存を求め、市民が協議し選定、登録し保護する仕組み
市民分担	市民ボランティアが発掘や町並み調査を支え、経営する
市民経営	住民/市民の拠金、地元企業への働きかけ、期間限定の所有

老舗や家族の手を離れ、宗教法人（社寺）が手放す地域の文化遺産を守る仕組み

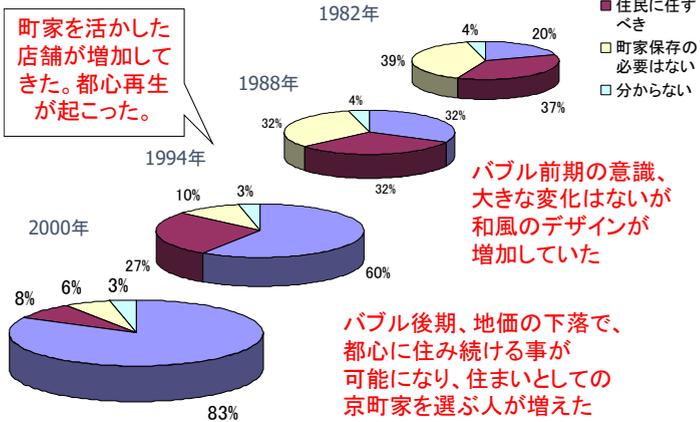


綿知りさ(1984年-)『手のひらの京』2006年、新潮社
*2001年紫野高校在学中「インストール」で文藝賞、2004年「蹴りたい背中」で芥川賞

- 京都は商売が上手くなった。綾香はここ十年くらいの中にしみじみ感じている。しかも年々腕が上がっている。綾香が高校くらいの頃は、京都のお土産といえば八つ橋等の伝統菓子が漬物、着物柄の和紙を貼りつけた手鏡やつまようじ入れ、新選組のはっぴくらいしか無かった。しかし、今では新しい和小物の雑貨店が通り沿いに建ち並び、手ぬぐい、巾着、あぶら取り紙、そして浴衣など、和テイストを見慣れた綾香でも思わず立ち止まってしまう、和の伝統と今っぽさを織り交ぜた京の雑貨が増えた。
- 食品も元から名産だった七味唐辛子や山椒のバリエーションが数えきれないほど増えた。夏になるとメニューに並ぶかき氷の種類も豊富になり、値段もさまざま、明らかに観光客狙いであるものの、綾香のような地元民も恩恵にあずかって、色んなお店の抹茶かき氷を食べ歩いたりする。昔ながらの町家をカフェやレストランにしたお店も好きで、むき出しの梁を見ながらトマトパスタを食べたりしていると、地元の人間には無かった発想だ。京都を住む場所としてではなく、もっと夢のある歴史深い場所として捉えられる人の視点だと思ったりする。



市民意識の変化、京町家への関心の高まり



町家を活かした店舗が増加してきた。都心再生が起こった。

バブル前期の意識、大きな変化はないが和風のデザインが増加していた

バブル後期、地価の下落で、都心に住み続ける事が可能になり、住まいとしての京町家を選ぶ人が増えた

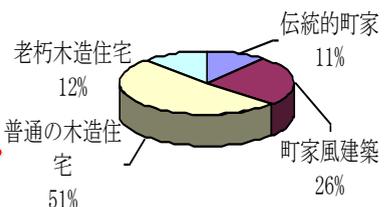
『京都市総合企画局市政アンケート』1万人抽出、他から作成

25

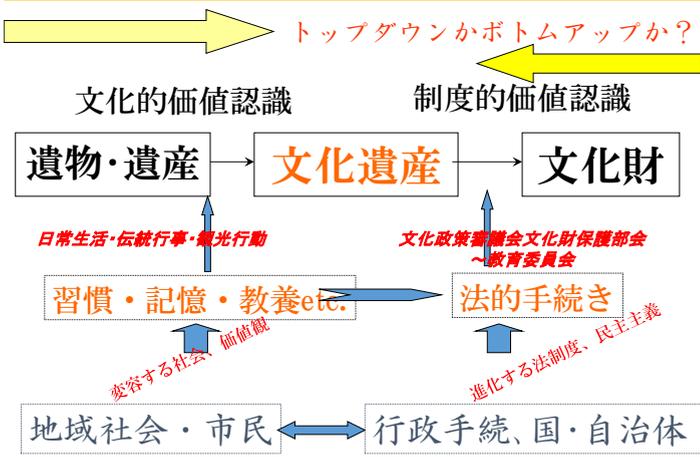
町家住民の意識調査 (1998年)

あなたのお住まいは町家？
町家を守った理由は？

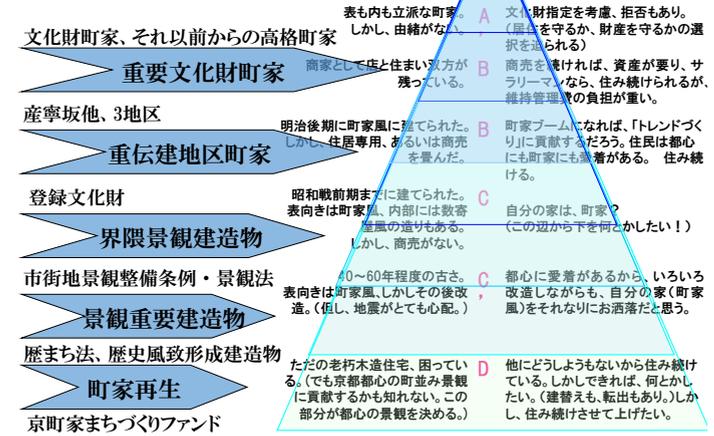
- ①自らの住まいを伝統的町家と思っている人は1割に過ぎない。残す価値を認めない。
- ②これまで残してきた理由は、個人的問題、家族への思い、仕事の都合であり、京都では景観を意識して残した人は、まったくいない。自分と家族が住み続けることを希望し、生活の質への関心は高いが景観への関心は極めて低い。
- ③伝統的暮らしに憧れる人がいる一方、伝統を嫌う人が町家住民には多い。町家ブームの後に、一般市民の関心と憧れが高まることで、新たに価値を見出す人が増えてきた。
- ④まちづくりの総合的課題として取り組む町家再生が始まった。



文化遺産の誕生と変遷



京町家ピラミッド



市民の8割が指示した新景観政策

京都市 新景観政策
 規制強化賛成8割超

新景観政策の賛否
 賛成 88.7%
 反対 10.6%
 どちらともいえない 4.5%

概要「知らない」半数

「経済沈滞」
 「反対意見も」

2/15(木) 京都新聞社

この数字は市議会に大きな影響、不動産・建築業界の圧力にも屈せず前会一致で議会通過！選挙直前だった。

建物のデザイン基準イメージ (例)

旧市街地型美観地区
 沿道型美観地区
 歴史遺産型美観地区
 沿道型美観形成地区

文化遺産周辺の新しい建物をデザインガイドラインで、京都らしさある町並みに形成

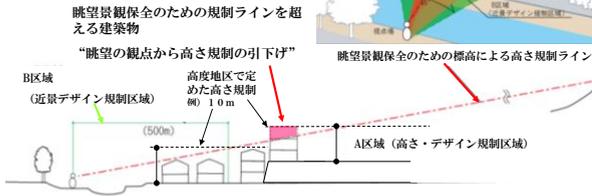
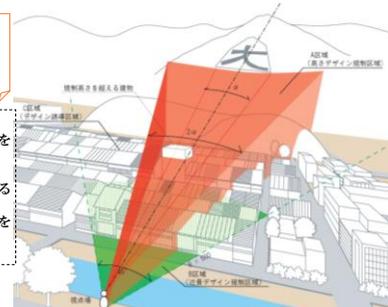
市民の華やぎと安らぎの場、四条通 (屋外広告物規制の効果)



眺望景観・借景の保全—眺望の観点からの高さ・デザイン規制の考え方—

新条例では、個々の眺望景観や借景の特徴に合わせてきめ細やかな建築物の高さ・デザインを規制・誘導

- 【規制区域】
 A区域 (赤の三角形の区域)：高さやデザインを規制する区域。赤色の平面を超える建築物は原則禁止。
 B区域 (緑の扇形の区域)：視対象と調和するようにデザインの規制をする区域。
 C区域：概ね視界に入る範囲で、A・B区域を除いた区域。良好な景色を形成するためデザインの誘導を図る区域。





実際の街並みの姿、2018年



2007年の景観政策が徐々に成果を見せ始めた



令和元年度京都景観賞 京町家部門 市長賞：南禅寺の家

京町家の知恵を受継いでいると認められる新築建物

伝統的な京町家の特徴である土壁や中庭を取り入れて新築された住宅。これにより、太陽の光をうまく取り込み、通風を確保し、自然の恵みを最大限活用することによって、冬は暖かく、夏は涼しい住まいを実現している。また、土壁など自然の素材を多く利用することにより、人にも自然にも優しい建物となっている。京町家で受け継がれてきた知恵を取り込んだ新しい住まい。施主と設計者、施工者が緊密な関係を築き、継続的に建物の維持管理を行っている。



京町家には、わずかな空間でも庭を作って自然の光や風を身近に感じながら潤いある暮らしができ、またプライバシーを保ちつつも適度に近隣の気配を感じながら暮らすことができるなど、長い歴史の中で育まれてきた知恵が詰まっています。それを実感している私は、京町家が一軒の家という点から道へ町へと広がれば、京都が、住人にとっても、訪れる人にとってもさらに素晴らしい街になるだろうと思っています。
「令和元年度京都市景観賞京町家部門」京都市、2019年

広がってきた文化遺産の世界



**まち・ひと・こころが織り成す
京都遺産**

あらゆる文化遺産をテーマでまとめ、
集合体として認定し、その魅力を分り
やすく伝える

市の文化財 指定・登録・維持・継承・活用

国の文化財 府の文化財



**京都を彩る
建物や庭園**

文化財指定されていない
建物や庭園を公募により
選定し、公表します

**京都をつなぐ
無形文化遺産**

文化財指定が困難な無形
文化遺産を選定し、市民
ぐるみで継承します

京都を彩る建物や庭園(2012年) 京都をつなぐ無形文化遺産(2013年)

有形文化遺産	指定・登録文化財	無形文化遺産
有形文化財		無形文化財
有形民俗文化財		芸能 工芸
史跡・名勝・天然記念物		無形民俗文化財
文化的景観		民俗芸能 民俗技術 民俗慣習
伝統的建造物群		

京都を彩る
建物や庭園
京都をつなぐ
無形文化遺産

2021年9月の審査会で、選定された建物・庭園は560件となり、その内認定が191件となった。
無形は『京の伝統行事』で6件を選定、一旦お休みな中
推薦されたと建物庭所有者に推薦理由と委員会の評価を伝えると、ほぼ全員が保存を了承する

京都は、日本の古都として伝統文化を有形・無形ともに継承するための努力が続けられている。国の文化財保護制度を超えた新しい仕組みが登場。

浜松地域遺産認定制度

- ・浜松市では、2016年度から国・静岡県・浜松市指定文化財や国登録文化財という文化財とは別に、緩やかな保護・活用制度となる浜松地域遺産認定制度（通称：認定文化財制度）を導入しました。
- ・従来の指定文化財や国登録文化財になっていないものの、市内の各地域に伝えられている数多くの文化財を「地域遺産」として認定していきます。
- ・記念物（史跡・名勝・天然記念物、伝承地）、有形文化財（建造物・絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古文書・考古資料・歴史資料）、無形文化財、民俗文化財（無形民俗・有形民俗、記憶遺産）、伝統的建造物群、文化財保存技術、文化的景観、伝統的生活文化、近代化遺産

大胆にも文化財の全カテゴリーを列挙、市民に伝わっているのか？



京都遺産

まち・ひと・こころが織り成す

「北野・西陣でつづられ
広がる伝統文化」
「山紫水明の千年の都で
育まれた庭園文化」
「世代を越えて受け継が
れる火の信仰と祭り」
「明治の近代化への歩
み」
「千年の都の水の文化」
「京町家とその暮らしの
文化」
「今も息づく平安王朝の
雅」
「千年の都を育む山と緑」
「京の商いと祇園祭を支
えるまち」
「京と大阪をつなぐ港ま
ち・伏見」

追加

文化遺産とカストーディアン

歴史文化都市・京都の文化遺産と市民・事業者の関係

第3のCustodian: 一般市民(+観光客)



多様な市民が文化遺産に関わる政策が観光振興に繋がる

コミュニティと住民=Custodian

- 「Custodian」、守衛、管理人という言葉。
- 聖ペテロは天国のCustodian、だから鍵！
- 文化遺産にとってのCustodian、それは地域住民、守り・活かすのは Custodian。
- 文化遺産の文化的価値は、その周辺に暮らす人々の心の中にある！
- だから、Custodianを活かすことが、文化遺産を活かすことにつながる！
- 遺産観光が文化観光になるかは、訪問者が、如何にCustodianと接触するかによって決まる。

ICOMOS文化観光憲章の考え方、開かれた文化遺産

文化遺産、文化芸術都市、市民・カストーディアンの位置づけ

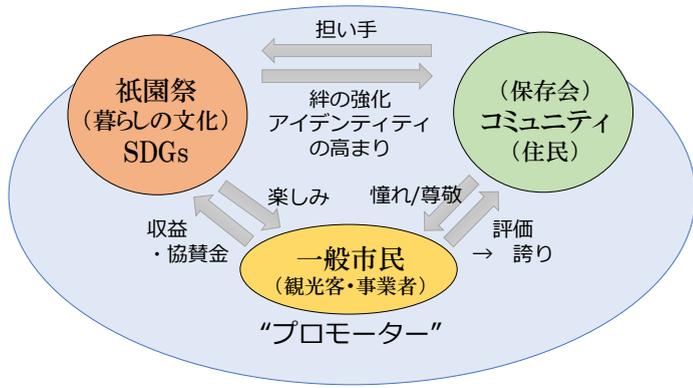
カストーディアン	社寺教会	美術館	画廊/古美術商	老舗	芸術都市
第1	宗教家 神主・僧侶	学芸員・ キュレーター	経営者	当代経営者	芸術家
第2	檀家 信者	友の会員 愛好家	顧客 会員	顧客 ヘビーユーザー	職人 デザイナー
第3	一般信者	訪問者 リピーター	訪問者 リピーター	愛好家 (一般)	事業者 従業員
第4	住民	市民	市民	市民 消費者	市民 消費者

様々な関わりをもつ人々の層が文化遺産と歴史的町並みを彩っていることが分かる？

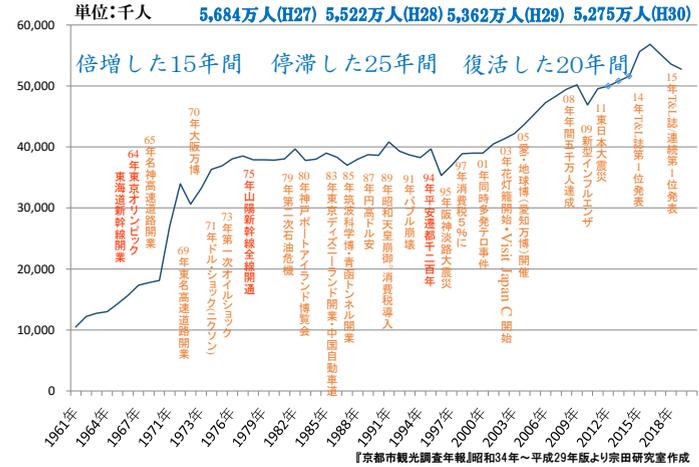
京都の4つのタイプの祭礼

祭礼	Areas	Types of Festivals
祇園祭(神輿渡御と山鉾巡行)	氏子町内 旧都心部	800年ほどの歴史、山鉾町が保存会を社団法人に 閉鎖的 → 開放的
五山の送り火と松上げ	愛宕郡の村々	700年ほどの歴史、元来の地域の家(住民)中心
時代祭	明治の京都、都心4区自治会	明治後期の平安遷都千百年 祈念内国博覧会の行事として 平安講社が主催運営
葵祭 賀茂祭	京都経済界と裏千家	1400年の祭礼、勅使代参は 継続、1956年に斎王列が創設

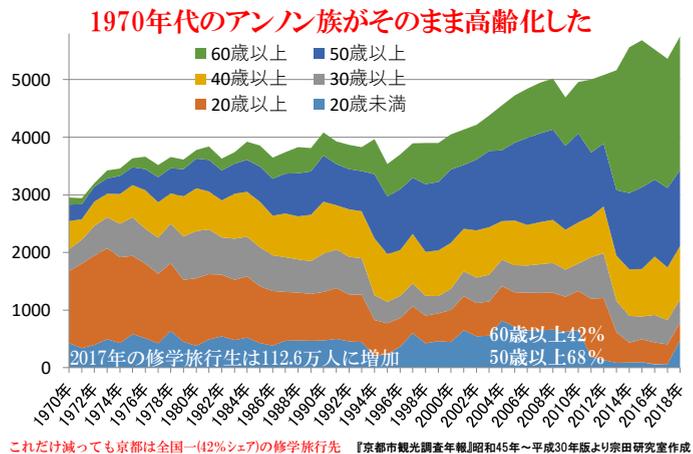
祇園祭と観光



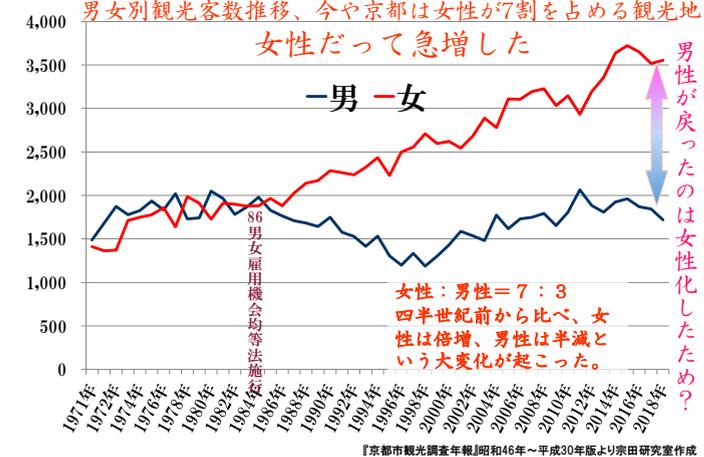
入洛観光客の推移：急増→停滞→増加の変転



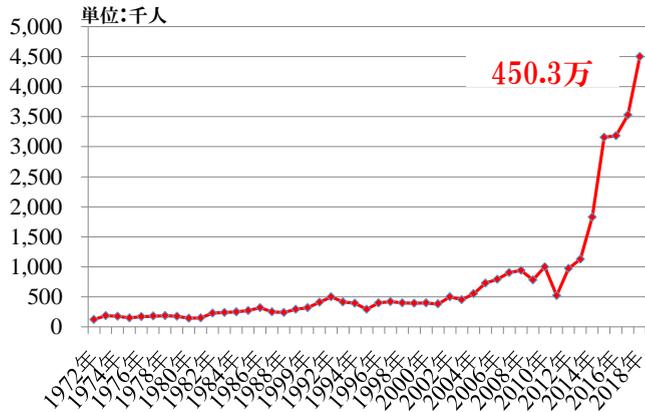
入洛観光客の年齢構成の推移



入洛観光客の内訳の変化～男女構成の変化～



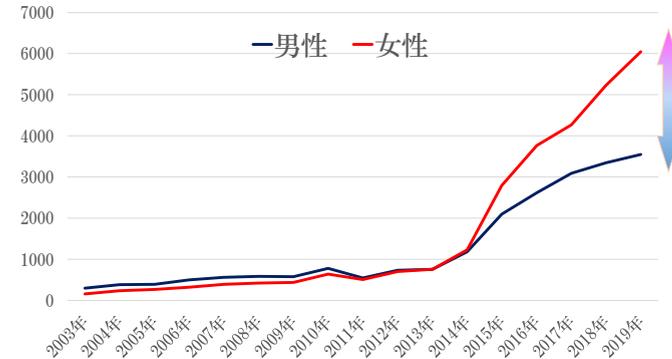
京都を訪れる外国人、その伸び！



『京都市観光調査年報』昭和46年～平成29年版より宗田研究室作成

中国人観光客の内訳～男女構成の変化～

中国人観光客の女性化が進んでいる。日本人女性が7割を占める観光地京都はアジアの女性を待っている



観光庁『観光白書』2018年から「国籍別性別観光客数統計」から作成

観光客の行動変容

動物園型



- ・絵本で見知った動物たちを確認して歩く
- ・見るだけで満足、その実、何も分からない

観光初心者、訳も分からず行程をこなすだけの旅

Travel Enjoy, Respect. I have spoken with invisible person

Stendhal型



- ・本質に感動、崇高な体験、自分だけの感動
- ・その地でもモノでもなく、感動を追い体験したい

十分な事前学習で明確な目的、あるいはリピーター

I am like you, You are like me and together

H. Hesse型



- ・訪問先の地域社会に溶け込み、同化する
- ・その地の文化や芸術に同化し、自ら創り出す

市民権を得て、その地の文化の一部になっていく

受容れ側の行動変容

動物園型



- ・動物園型の観光客は市民生活から隔離
- ・交流せず、土産品は売るのが理解を求めず

初心者に高度なことは求めず、マナーも要らず

自分たちも動物園型だった経験から時には厳しく

Stendhal型



- ・学びたい人の理解度と本気度を試す
- ・その程度により対応する。徐々に深める

特に感受性、ホストの立場への理解に敏感に反応

その敏感な反応に自らの初心を想起し敬意を払う

H. Hesse型



- ・地域社会の一員として受入れ、ホストとする
- ・外の世界との橋渡しとして自らを開く

外国人がいてこそ、世界の一員になれることを知る

受容側の市民のグローバル化

井蛙の管見



- ・海外旅行せず、自国民すらよく知らず
 - ・外国人も海外旅行を理解せず、偏見視
 - 自国民の常識を異文化人にも求め説明もしない
- 海外の人たちと話すこともない、交流したくもない

外国体験型



- ・自ら異文化体験、新発見と感動を喜ぶ
- ・深い興味は観察力、観光の感動を伝える
- ゲストの狭い常識を刺激し、異文化交流を楽しむ
- ゲストを楽しませることで自らの経験を再体験

コスモポリタン型



- ・海外の人との交流を好み、自らをUp Date
 - ・海外旅行クラブ一員として仲間意識をもつ
- 身近にインバウンドがいてこそ自分らしく生きる

イタリアでいう社会統合の五段階

1. イタリア市民になりたいという願望、公共生活への参加、そして現在の出来事への関心などの要因を含む政治的な側面です。
2. 経済的状况、労働条件、仕事の規則性、失業時の対策、自分の労働能力の認識です。
3. 社会的環境、尊重され、差別されない認識に加え、自発的に多様な市民活動への参加の意欲。
4. 文化的段階、イタリアの食物、ファッション、メディアなど文化の消費に親和性を示すか。
5. 言語能力、イタリア語が話せ、経験を語り、自ら知識を得られる能力を持っているか？

Istat によって識別される5つの統合変数

浜松市多文化共生都市ビジョン

「相互の理解と尊重のもと、創造と成長を続ける、ともに築く多文化共生都市」

- 1.異なる文化を持つ市民がともに構築する地域
- 2.多様性を都市の活力と捉え、発展していく地域
- 3.誰もが安全・安心な暮らしを実感できる地域に築く多文化共生都市
 - ・外国人市民のまちづくりへの参画促進
 - ・次世代の育成・支援
 - ・多様性を生かした文化の創造・地域の活性化
 - ・防災対策

文化財と多文化共生

- ・最初はホストとゲストの関係（文化の違いを知るための手段）互いのアイデンティティの認識
- ・ホストが高齢化して、自文化を次世代に伝えるための手段とした時、次世代にゲストも加える
- ・やがて、自身の次世代同様に、文化を共有できる他者の次世代も継承者たりうることを知る
- ・自他に関わらず、文化を共有できるものこそ次世代だと理解する。
- ・その文化を共有するための手段が文化財、
- ・文化共有で多民族で地域文化を共有し共生する

下町の老朽化した住宅を市が買上げ、市営住宅として再生・建替えた



今では都心の町並み再生公営住宅入居者の34%が外国人。京都でも中国人が町家ホテルを経営する。

一気に住宅団地を開発せず、空洞化した中心市街地を徐々に再生。だから住民の多くも零細店舗も残り、整備された部屋に学生が入居。

御所東団地：
住宅供給公社による特優賃



安いから郊外住宅団地に住みがちな多様な外国人を下町に誘導、分散居住させる



京都モデル

「文化」を「観光」の力で
あらゆる社会的課題を解決できる力に！

- 1 「文化」と「地域コミュニティ」を大切に守り育てるまちづくり
- 2 「観光」課題解決先進都市・京都
- 3 担い手の育成

京都の文化と文化財を京都市民だけのものとして独占することなく、世界の人々に開かれ、ともにも守り継承してく、こくしゃい社会と連携した持続可能な文化と観光のあり方を模索する

文化遺産⇒『地方創生』⇒芸術創造



文化力:文化遺産は創造性を刺激する

意見募集 (パブリック・コメントの実施)
市民等30人から137件のご意見が寄せられました

- 本市の観光について。浜松は観光資源の宝庫ですが、資源単品としての洗練度が低く、土産物や物産品の観光消費金額が低いといわれます。また、公共機関によるアクセスや駐車場整備に遅れ、周遊ルートを含む滞在時間が短いことなどの観光戦略に対する調査分析や対策が求められています。今後の対策に期待を込めて、そうした動向も併せて明記すべきと考えます。
- 弥生時代から奈良時代にかけて伊場遺跡が全国でも重要な遺跡であることを明記してください。また、JR誘致と裁判についての記録もトピックスとして残してください。
- 計画案 40 ページの東海道線と鉄道院工場の記述に関して、工場の地元誘致のことだけを記述するのは不十分である。伊場遺跡の史跡の占有や譲渡、裁判の歴史も併記すべきだ。

『開発事業と埋蔵文化財
伊場遺跡をめぐる開発・保存運動・訴訟』
荒木田 岳、日本経済評論社、2021年4月

浜松市に所在する縄文～鎌倉時代の複合遺跡「伊場遺跡」は、史跡指定解除という異例の処分により線路の下敷きにされた伊場遺跡。その知られざる経緯を当事者の記録や証言から明らかにし、裁判の果たした役割を再考。行政への民意反映の糸口をさぐる。

著者：1969年石川県生まれ。福島大学行政政策学類教授。専攻は地方行政論。著書に「村の日本近代史」など。

イタスケ古墳、平城宮跡、柳之御所、住民運動で守られた遺跡が世界遺産に登録、「伊場遺跡」も20～50年経てば同様に世界文化遺産に登録されるだろう！浜松は、史跡整備の中心



日本の世界文化遺産

登録名	登録年	登録名	登録年
法隆寺地域の仏教建造物	1993年	石見銀山遺跡とその文化的景観	2007年
姫路城	1993年	平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学遺跡群	2011年
古都京都の文化財	1994年	富士山—信仰の対象と芸術の源泉	2013年
白川郷・五箇山の合掌造り集落	1995年	富岡製糸場と絹産業遺産群	2014年
原爆ドーム	1996年	明治日本の産業革命遺産	2015年
厳島神社	1996年	ル・コルビュジェ建築作品	2016年
古都奈良の文化財	1998年	「神宿る島」宗像・沖ノ島	2017年
日光の社寺	1999年	長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産	2018年
琉球王国のグスク遺産群	2000年	百舌鳥・古市古墳群	2019年
紀伊山地の霊場と参詣道	2004年	北海道・北東北の縄文遺跡群	2120年